

平泉町総合計画(案)に関する意見公募(パブリックコメント)
意見の概要と意見に対する町の考え方

| No. | 項目 | 意見の概要 | 意見に対する町の考え方 |
|-----|------------------------|---|---|
| 1 | P.21～37 現計画達成状況調査 | 平成 23 年度からの「新平泉町総合計画」の達成状況調査は総括であり、具体的な到達点がつかめない。具体的な事業の成果等を示していただけるよう期待したい。 | 「現計画達成状況調査」については、「新平泉町総合計画」に掲げた主要施策の実施状況について点検し、進捗状況について評価したものと なっています。 具体的な施策(事業)につきましては、毎年度、前年度に実施した施策(事業)の状況を取りまとめて「政策評価」を実施し、達成状況及び課題等を検証した結果を町ホームページで公表しております。町民の皆さんに広くご理解いただけるよう、さらなる周知を図って参ります。 |
| | P.58 総合計画の将来像 | 「新たな魅力5本柱」のように、まちづくりの将来像を町民や地域などに分かりやすく掴んでもらい、理解し納得できるように総合計画を推進していくことを小さい町だからこそ徹底し、実施計画では具体的な展望を示してもらいたい。 | 本町に生まれている新たな魅力は、本計画を推進するにあたって最も重要な要素であり、町民・地域・企業・団体などの皆さんと「今後 10 年間のまちづくりを支える柱」であることの共通認識を図るため、「5 本柱」として打ち出しております。 総合計画の内容につきましては、令和3年度に概要版を全世帯配布するとともに、実施計画についても毎年度公表し、内容の周知を図りながら計画の推進に努めて参ります。 |
| | P.59 「新たな魅力5本柱」の各項目 | 社会教育施設は子育て中心の施設になっているが、町民の3～4割を占める高齢者も気楽に立ち寄れ、元気を出せるような場所となるような運営の検討、道の駅については、外のテントで朝市のように誰でも自由に販売できるなど経営を工夫してはどうか、さらに「平泉といえば〇〇」といったように町の特産品を決めて1次～6次産業を興して | 社会教育施設は、町における人づくり・まちづくりの拠点として位置付けており、子どもから高齢者が学習活動に親しみ、また、気軽に立ち寄って時間を過ごせる身近な施設として整備を進めております。 世代を問わず、町民の皆さんの生活をより有意義なものとしていただくため、社会教育施設を活用していただきたいと考えております。 |

| | | | |
|--|------------------------------------|--|---|
| | <p>P.61 基本構想の基本目標 1の前文</p> | <p>いくなど、行政からの町民などが町の発展に希望を持てるようよう行政からの働きかけに期待したい。</p> <p>「本町に生まれ育ったことに誇りと愛着を持つことができるよう「平泉学」学習を行い、未来にはばたく教育を進めます。」とありますが、UIターンで移住した子どもたちとの関わりが気になります。</p> | <p>道の駅については、98 ページの「基本目標3-1 農業の振興」4.主要施策(3)に掲載しておりますとおり、本町の農業振興の核となる施設として位置付けておりますことから、誰もが出荷できる体制の整備と併せて、生きがいや楽しみをもって農業に取り組める環境を整備し、生産者と利用者双方の道の駅に対する魅力の向上を図って参ります。</p> <p>特産品については、学校給食での食育(72 ページ 基本目標 1-1 4. 基本施策の(6))や地域の飲食店を中心とした地産地消(98 ページ 基本目標3-1 4. 基本施策の(4))を推進するとともに、道の駅平泉等への出荷・販売を強化することで、農産物の生産と流通の拡大を図りながら、事業者が行う地元農産物や加工の技術を活かした加工品の開発を支援(107 ページ 基本目標3-4 4. 基本施策の(3))し、単に生産するだけでなく、事業者が主体的に取り組む6次産業化及び特産品創出の促進につなげて参りたいと考えております。</p> <p>「平泉学」は、幼児から中学生までの系統的な学習活動を中心として、地域においても世代を問わず平泉を学び合う取り組みです。移住した方々におかれましても、地域の方々と同様に平泉学の学びを通じて平泉の魅力を知り、本町を「ふるさと」として思いを育んでいただきたいと考えております。</p> |
|--|------------------------------------|--|---|

| | | | |
|--|--|---|--|
| | <p>P.103～105 基本目標3-3 観光の振興</p> | <p>世界文化遺産の中尊寺や毛越寺にも新たな魅力はまだまだたくさんある。両山と行政の連携した意見交換の組織も検討してはどうか。</p> <p>ウォーキングトレイルの整備について、眺望確保するための伐採、棚田・遊水地のマイクロバス巡りや両山見学、景観巡りと組み合わせるなど、滞在型観光を目指す上で町民・地域・団体・企業からアイデアはたくさん出ると思う。</p> | <p>町では、両山をはじめ、観光協会や商工会などの団体とで構成する審議会及び委員会等を組織しており、連携しながら文化遺産等の魅力を活用した事業の検討や立ち上げを行っております。また、令和3年は世界遺産登録10周年を迎える記念すべき年であることから、今後もあらゆる関係者・団体との連携を図り、町内外に発信する新たな魅力の創出を図って参ります。</p> <p>ウォーキングトレイルの整備については、「ウォーキングトレイル魅力化計画」に基づき、「平泉ウォーキングトレイル」及び「西行桜の森のウォーキングルート」の両ルートについて、関係者及び団体等と連携し、魅力や課題、アイデアを整理し、ルート整備を進めている段階です。眺望確保に向けた樹木の伐採やその他の資源との組み合わせについては、引き続き関係者及び団体と協議し、意見やアイデアをいただきながら、新たな観光コンテンツとして活用・発信して参りたいと考えております。</p> |
|--|--|---|--|